

令和4年度 京都府立井手やまぶき支援学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (実施段階)

学校経営方針		前年度の成果と課題		本年度の学校経営の重点(短期目標/概ね1年間)		
<p>【教育理念】 地域と共に歩む学校</p> <p>【校 是】 光輝 地域(まち)を照らせ</p> <p>【学校教育目標】 みかく むすぶ きりひろく</p> <p>【経営方針】 中期経営方針(概ね3年間) ◇教育目標実現のために、開校後の第一期、三年間において、地域関係者・保護者に、教育実践・教育課程を理解いただきながら同時に、教育実践・教育課程づくりへの連携協働を進め、「井手やまぶき支援学校」がこの地域にあって良かった」という思いをもっていただけるように、あらゆる分野において精励する学校経営を実施する。そのために、学校予算の合理的かつ効果的な執行を実施する。 重点課題(「アクション7(セブン)」)と3ヶ年計画を制定する。</p>		<p>前年度の成果と課題</p>		<p>本年度の学校経営の重点(短期目標/概ね1年間)</p> <p>【今年度の重点課題/井手やまぶきアクション7(セブン)】3ヶ年計画うち1年目 アクション1 生涯に及ぶ、生きる力の育成のための基盤づくり 読書活動、生涯スポーツ・学習、ISCC、インクルーシブ教育システム、交流及び共同学習 アクション2 どのような時代であっても必要な資質・能力の育成 教科指導、教育課程、カリキュラム・マネジメント、(GIGAスクール)ICT 等 むすびカリキュラム、公開研究会(2年目中間・完成)、 アクション3 大人に向けた健やかなからだ、豊かな心の育成 保健指導、安全教育、性教育、主権者教育、生徒指導、教育相談、特別活動、いじめ 等 アクション4 自立と社会参加を実現し、幸福な人生とよりよい社会づくりを目指す力の育成 進路指導、キャリア発達、等 アクション5 教員の専門性確保と本校第2期への継承、それを支える環境条件作り 研究、OJT、外部専門家 働き方改革 アクション6 多様な専門性を持つ教職員の、それぞれの専門性を生かした連携と協働 学校経営、施設・設備、情報の管理、情報の公開、危機管理 アクション7 地域支援推進、地域関係者・保護者との連携と協働 井手やまぶき相談・支援センター、のみならず全校による地域支援 学校運営協議会(コミュニティスクール)、PTA、YS(やまぶきサポーター)、YB(やまぶきボランティア)</p>		
評価領域	重点目標			具体的方策/目標値	評価 部門 総合	成果と課題(パーセンテージは教職員、保護者のアンケートによる意識調査)
アクション1 生涯に及ぶ、生きる力の基盤作り	【読書活動の充実】 ・府特別支援学校の読書活動の拠点校として蔵書整備しつつ、読書活動が定着するように全校プログラムを展開する。	①外部専門家を招き、図書環境を整備するとともに読書活動を充実させる。 ②貸出システムを構築し、家庭持ち帰りの奨励、及び読書奨励賞等による全校的な読書活動の定着(本の貸出 年5000冊以上 月1人3冊以上) ③蔵書数2000冊以上(開校時約1500冊) ④分類マークを手がかりにした本探しなど、図鑑や絵本に触れる機会の拡大や図書を活用した探究活動の展開 ⑤府立図書館や町立図書館の活用及び団体貸し出しの積極導入 ⑥読み聞かせの会(12回以上)、読書月間の実施(6月、2月)	◎	①学校図書館アドバイザーを招き、PTAと合同研修会を実施(6月、2月)、講義内容を府内特別支援学校へ発信した。また、YS(やまぶきサポーター以下YS)と協働し、図書環境の整備・充実を行った。 ②WIN書庫管理システムを活用し貸し出しシステムを構築した。貸し出し数(4200冊、月1人2.5冊) ③個人、団体からの寄贈や購入図書により、蔵書数2150冊となった。 ④分類マークの活用53%にとどまった。図書推進の校内組織化が今後の課題。 ⑤府立図書館や町立図書館の活用及び団体貸し出しの積極導入(450冊) ⑥読み聞かせの会(13回)、読書月間(6月、2月)実施した。		
	【生涯スポーツ・生涯文化につながる学習の充実】 ・生涯にわたってスポーツ、芸術・文化活動に親しみ意欲や習慣を育てる指導の充実	①CSを機能させ、スポーツや文化を楽しむ日(ISCC)を年5回実施する。 ②活動計画に基づく安全・安心な部活動の実施と各種大会への参加の推進		○	①計画通り年5回実施した。参加者は延べ57名、参加ボランティアは延べ45名。●学校運営協議会主体の運営、参加しやすい制度設計の工夫、参加者増が課題。 ②外部部活指導者による、専門的な指導のもと、部活動の計画的な実施を行った。府立特別支援学校スポーツ交流会大会等に計画的に参加した。	
	【インクルーシブ教育システム】 インクルーシブ教育の構築を目指した、交流及び共同学習の実施	①小学部居住地校交流の実施(R3年度実績+10%以上) ②交流及び共同学習など学校間交流の計画的な実施 ③地域貢献活動等地域との多様な取組の実施		◎	①小学部居住地校交流、延べ31回(30名、13校)実施した。 ②計画的に学校間交流、交流及び共同学習を実施した。(小6回、中5回、高4回) ③高等部を中心に通学路や公共施設等への清掃、駅等への花ボランティアの設置を行った。地域ボランティアとの協働につながった。	
アクション2 どのような時代であっても必要な資質能力の育成	【教科指導、教育課程】 ・教育目標に基づく授業実践と地域資源を活用した授業の実施	①担任が行う自立活動の指導の充実と流れ図を使った実態把握から具体的な指導内容の設定 ②確かな学力の育成に向けて基礎基本的な知識・技能の確実な習得を図る教科別の指導の充実 ③主体的に取り組む意欲や自信、自己肯定感などを育てる各教科等を合わせた指導の充実 ④地域資源活用の取組を継続的に実施	◎	①85%作成率。流れ図の検討で、複数の視点で個に応じた支援について実態把握から具体的な指導内容の設定ができた。 ②81%充実できた。 ③89%充実できた。 ④地域団体のこまちサロンへの参画、作業学習の地域講師による指導、地域の公共施設等で清掃を行うなど一年を通して継続的に実施できた。		
	【カリキュラム・マネジメント】 ・継続的・発展的な授業改善の推進	①学部間・教師間の連携、学びの連続性など、12年間を結び、『むすびカリキュラム』の確立 ②各学部で教育課程検討会議を定期開催し、学習指導要領の観点別評価等の理解を深め指導計画の改善に生かす。	○	①むすびカリキュラムによるむすびスタディ(小6-中2、中3-高2)を9~11月間に実施した。児童生徒にとっては、あこがれや生活年齢を意識したふるまい等を育てることができ、指導者にとってはお互いの学部の状況や指導観を知る機会になった。●保護者への周知が課題(知らない34%) ②学部運営会議を中心に単元計画や見直しなどを行い、指導計画の改善に活かした。		
	【GIGAスクール】 ・ICT機器を利活用し、意思表示の手段や外部との関わりをもつことで、生活や学習に対する意欲及び自己表現力を育む。	①タブレットを活用した授業等の実施、及びteamsやロイロノート等を活用した授業等の実施(学期1人1単元以上) ②プログラミングを取り入れた学習活動の推進 ③ICT機器を活用した土浦特別支援学校(姉妹校)との遠隔交流(各学部2回以上)		○	①タブレットを活用した授業実践を行うことができた。 ●プログラミングを取り入れた学習活動については19%の実施にとどまった。 ③土浦特別支援学校(姉妹校)と遠隔交流を各学部2回行った。郷土学習を深めたり、RUN³(マラソン)、HON³(読書マラソン)等の取組につなげることができた。	
アクション3 大人に向けた健やかな心、豊かな心の育成	【人権尊重の教育の推進】 ・人権を大切に教育の充実 ・適切な生徒指導と、事象の共有化	①主権者教育や人権教育を計画的に行い、社会へとつなげる指導を継続して行う。 ②SCやSSWと連携し、指導事象を共有化する関係者会議等を行う。 ③人権尊重の観点から児童生徒の適切な呼称など、校内の言語環境の充実 ④アンケートによるいじめの未然防止と体罰・不適切な指導の禁止・根絶	○	●68%の実施。高95%中70%小53%と生活年齢が下がると共に実施率も下がった。各学部段階での主権者教育、人権教育の捉えと学部のつながりが課題。 ②SC(スクールカウンセラー以下SC)・・・11日、延べ44名、研修2回 SSW(スクールソーシャルワーカー以下SSW)・・・8日、延べ16名、の活用があった。いじめ対策会議では事象を共有化し、SCの専門的な助言を受けることができた。 ③83%意識できた。さらに意識を高め、学校全体で認識を共有する。 ④SCやSSWの講演を設定し、いじめや不登校、SNS問題への対処法やカウンセリングの現状について学ぶことができた。		
	【安全教育の推進】	①各学部で安全教育を計画的に進める。 ②防災・防犯・安全訓練の実施(月1回以上) ③施設安全/施設・設備利用に関する安全な利用方法の徹底(行方不明・けが等の防止、安全表示) ④通学安全/通学環境の整備(SB 発着体制、送迎車両対応、通学路点検) ⑤避難訓練/外部評価を活用した、児童生徒の実態に応じた避難訓練		○	①小/防災安全スタンダードを作成し、意識化した。中/特別活動で計画的に実施した。高/防災頭巾100%●単元化の意識が薄かった。 ②安全の日を毎月設定し、全校対象、教職員対象の防災・防犯・安全訓練を実施した。特に教職員対象は、開校後児童生徒を迎えるまでの間に実施し、安全意識を高めた。 ③施設設備の安全点検を毎月実施し、不具合等を集約し対応した。 ④通学路の状況に応じて点検と見守りを行った。猿の対応は井手町と連携しながら情報共有し、適切に対応した。送迎車のルールが浸透し安全に送迎できた。 ⑤避難訓練は消防署の助言を受け計画し、実施の様子を評価していただいた。より実際に則した訓練の計画を行い、児童生徒の防災意識や安全対応能力を一層高められるようにする。保護者参加を設定し、訓練の様子を知っていただいた。	
	【保健指導、教育相談、特別活動】 ・安全・安心な保健体制の構築	①個に応じた安全でおいしい給食提供と楽しい給食タイムの実現 ②適切なアレルギー対応を行う為の教職員研修及び校内保健体制の構築 ③安全・安心な医療的ケア制度の実施、並びに適正な医療的ケア体制の堅持		○	①井手町内の小中学校と地場産物を使用したメニューを同日に提供し、リモート交流を行った。給食月間ではリクエスト給食や評価の保護者参加、メニューをSNSで発信するなど児童生徒の期待や給食への理解につなげた。 ②アレルギー対応委員会の方針をもとに、教職員への周知を行った。 ③医療的ケア担当者を中心に、教室環境整備マニュアルを作成し、共有、実施を行った。	

アクション4	自立と社会参加を実現し、幸福な人生とよりよい社会づくりを目指す力の育成	<p>【進路指導・支援】 ・希望進路の実現と進路開拓</p>	<p>①高等部卒業後の社会参加を見据えた進路学習及び保護者支援の充実 ②高等部コース制に連動させた実習先開拓と実習、校外実習(職場実習)を積極的に実施し、働くことへの意欲を高める。 ③教職員に事業所や実習先へ見学する機会を設ける。</p>	◎	○	<p>①児童生徒にとってより進路選択ができるように情報共有等の進路説明会、研修会を行った。●保護者の施設見学については小学部の保護者の参加が少なかった。早期から卒業後の生活について考えてもらう機会を設定する。 ②地域の状況や関係機関と連携し進路実現に向けた包括的なネットワークができてきた。また、相談支援事業所等と進路相談等の機会を設け情報共有することができた。 ③延べ35名が見学した。●校内研修や資料の共有を行うなど教職員への周知・学習の機会が必要。</p>
		<p>【キャリア発達等】 ・児童生徒がライフステージを意識した、学習活動と学部ごとのゴールを明確にしたキャリア教育の推進</p>	<p>①社会や人の役に立つ喜びを豊富に体験し、児童生徒の自信や意欲を育てる一貫性のあるキャリア教育の推進 ②自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につなぐキャリアパスポートの作成と活用</p>	○		<p>①98%の実施率。12年間のつながりを意識したキャリア教育を追求する。 ②30%の実施率にとどまった。キャリアパスポートについての学びが必要。</p>
アクション5	教員の専門性確保と第2期への継承、それを支える環境作り	<p>【研究】 ・全校研究主題の、実践研究推進 ・全校授業公開を行う</p>	<p>①外部専門家の助言を受け、自らの実践を振り返る機会を持ち、授業改善を行う。 ②全校公開研究会(令和5年度)実施予定</p>	◎	○	<p>①96%の実施率。3回の総合教育センター出前講座による授業研究会で指導助言を受けた。また、YYディスカッションで大切にしたいポイントや、授業で取扱う内容について気づきを得ることができた。チャレンジおむすび授業研での公開授業数(小33、中高41) ②R5年度はR4年度の研究成果を生かした授業公開を開催し、R6年度に、開校2年間の成果を活かした教育課程改善研究と公開研究会を開催するよう計画を進める。</p>
		<p>【OJT】 ・教育公務員として府民に信頼される教育活動を基盤とし、児童生徒の規範となる誇りある行動実践に努める。 ・学校組織としての人材育成体制の整備</p>	<p>①体罰や不適切指導の根絶など、人権意識やコンプライアンスの向上につながる研修の実施 ②教育理念の理解と社会人・教育公務員としての自覚と行動実践 ③組織を機能的に運営するミドルリーダー層の発掘と育成 ④教職員キャリアステージを意識した研修の実施及び指標の意識化 ⑤経営企画室と職員室の連携と情報共有による確実な業務遂行 ⑥オンラインで学ぶナビゼミの受講(1人月1回以上) ⑦教職員ハンドブックの周知、活用</p>	○	○	<p>①③④コンプライアンス研修(1回)、ステージ別研修を「人権」をテーマに行った。(4回)各キャリアステージごとに教育公務員としての求められる力の確認、資質向上に向けてグループ討論で深めることができた。 ②教職員100% 今後も教育理念、社会人・教育公務員としての自覚と行動実践につなげる。 ③毎朝の打ち合わせを実施し、必要な情報をいち早く共有し、対応につなげることができた。 ④93%良かったと答え授業や日常生活の指導の実践に活かすことができた。●幅広いニーズに対応したオンライン研修を設定する。 ⑦開校時の教職員の業務周知に非常に役立った。R5年度に向けて微修正を行う。</p>
		<p>【働き方改革】 ・ライフワークバランスを踏まえた安全で魅力ある学校環境・職場環境の創出 ・愛校精神の基盤となるように清潔で美しい学校環境を築く。</p>	<p>①『やまぶきスマートプロジェクト』に基づく快適な職場環境の整備・時間外勤務月45H超教員(0人)、ペーパーレス化、クリアデスク、リフレッシュの機会の充実等 ②全校規模の会議の所要時間(45分以内) ③整理整頓されたきれいな教室・廊下、掲示板の整備・活用、花壇・植込み・農場の美化・整頓、絵画作品等の計画的展示</p>	△		<p>①がくぶり登録100%により配布文書、会議等の資料もデータで共有することでペーパーレス化ができた。コピーや配布作業等の労力を年間約55Hの削減ができた。●時間外45時間以上、月平均22名、1学期29.5名から2学期16.8名へと減少した。1学期は開校による繁忙と分析。少しずつ業務分担が明確化できたが依然一部の教職員への業務の偏りがあり、課題。 ②全校規模の会議の所要時間45分以内で実施。 ③保護者80%、教職員97% 維持管理に努めていく。●絵画作品等の計画的展示は課題</p>
アクション6	多様な専門性を連携し、協働を推進する	<p>【チーム学校】 ・質の高い教育活動を支える経営企画機能の充実</p>	<p>①学校経営計画の具体化に向けた合理的・効果的な予算執行 ②多様な専門性を有するスタッフと教職員が自らの専門性を十分に発揮し、「チーム学校」としての総合力、教育力を最大化できる体制の構築</p>	○	○	<p>①スクールマネジメント会議内で予算状況の開示を行い、節減につなげた。 ②保健部・医療的ケアクラス・学校看護師との組織体制づくりに努めた。「チーム学校」としての総合力、教育力を最大化できる体制を追及していく。</p>
		<p>【情報の管理、情報公開】</p>	<p>①個人情報保護と紛失事故防止、クリアデスクの徹底 ②HPIによる情報発信の活発化(各学部毎日発信)</p>	◎		<p>①教職員クリアデスク79%の実施率。個人情報の保護をさらに徹底する。 ②各学部の様子をほぼ毎日発信し、好評を得ることができた。</p>
		<p>【危機管理】 ・学校安全会議の計画的な運営による安全・安心な安全管理体制の構築</p>	<p>①感染予防・感染拡大防止等対応の徹底 ②地域との災害時相互協力関係の推進と取組成果の発信(福祉避難所) ③『普通救命技師認定証』を保有する教職員(現有+10%以上) ④医療的ケア安全委員会を中心とした研修を計画的に行うと共に、医ケアに関するヒヤリハット事象及びインシデント・アクシデント情報の周知と事故発生防止の徹底 ⑤個別の緊急対応訓練の実施</p>	○	○	<p>①検温、手指消毒・マスク着用や体調不良時の自宅療養、来校者、校舎利用の制限等の感染予防・感染拡大防止等対応の徹底を行った。また、教員業務支援員による校内消毒を行い、衛生的な環境確保に努めた。 ②地域との災害時相互協力関係については、今後進めていく必要がある。 ③R4年度取得者27名 現保有率56% ④医療的ケア安全委員会を3回開催し、医ケアに関するヒヤリハット事象及びインシデント・アクシデント情報の共有と事故発生防止について確認した。 ⑤夏休み終了までに9回実施した。回を重ねるごとに改善を重ね精度を上げることができた。</p>
アクション7	地域支援推進、地域関係者・保護者との連携と協働	<p>【井手やまぶき相談・支援センター、全校による地域支援】</p>	<p>①園や学校からの依頼に基づき早期から学びにくい子への支援を行い、子どもの肯定的な自己理解を積み上げる。 ②個別最適な学びにつながる学校公開と個別相談の充実 ③市町教育委員会等との綿密な連携による、相談等の円滑な実施と、校区相談支援体制の整備に向けた支援の充実 ④地域の関係機関との連携を強化し、各学校の教育の情報共有により、障害のある児童生徒及びその保護者へのきめ細かな支援を行う。 ⑤府の専門チームや本校の地域巡回相談員による巡回相談の実施</p>	○	○	<p>①幼児発達の状況や見通しを共有し、継続的に連携することができた。●就学前の相談支援については、各機関の取り組みから成果や課題を共有し、役割を整理し周知する必要がある。 ②コロナ禍の制約下により学校公開での実施はできなかったが、個別相談は充実できた。 ③④連携協議会では、各機関の就学前支援の状況や課題について情報共有ができた。保護者支援の一環として、子育て教室を実施した。(1回、参加者15名) ⑤校内相談員による巡回相談システムの体制整備を進めることができた。(39件)</p>
		<p>【学校運営協議会(コミュニティスクール)】 ・地域の中での生涯学習の基盤作りとして、地域と共に歩む学校づくりに向けた推進体制を構築</p>	<p>①外部専門家を招き、CSの研修の実施 ②地域住民の参画による豊かな体験的学習の充実</p>	◎	◎	<p>①CSマイスターを講師に招き、研修会を2回実施できた。 ②こまちサロンの実施23回(小7中8高8)、9団体に参加していただいた。</p>
		<p>【保護者・地域との連携・協働】</p>	<p>①学校公開(年5回)来校者(年250人以上) ②やまぶき祭来校者(100人以上) ③学校評価保護者アンケートの回収率(90%以上) ④PTA(YS)、地域ボランティア(YB)による応援組織の構築(年延べ120人) ⑤府立学校体育施設開放事業の実施(年4回)</p>	◎		<p>①コロナ禍の制約下ではあるが、学校公開を5回実施し505名の来校があった。 ②やまぶき祭来校者145名 ③回収率57%にとどまった。アンケート等の意見を参考に学校経営に生かすためにも保護者への協力を進めていく。 ④2月現在 YS延べ128人、YB(やまぶきボランティア)延べ3人の参加があり、学校応援組織の基盤づくりができた。 ⑤年6回実施し、3団体の活用があった。</p>
学校関係者評価委員会による評価	開校年であったが様々な視点で業務を整理され、わかりやすい指標のもと実践を進めてこられたことがわかった。実践したことの数値化も大切で、次年度は質的評価についても充実が求められる。教育活動及びその他の行事等において地域と繋がることの意義、方法とその改善を今後も意識されたい。					
次年度に向けた改善の方向性	開校年度の到達点を踏まえ、地域関係者・保護者から信頼され、期待される学校づくりを一層推進する。感染症対策と子どもたちの学びの保障の両立を追求し、教育実践・教育課程を理解いただくための発信や学校公開の工夫を行う。開校第1期の中間発表として公開研究会を実施する。教職員のコンプライアンス意識をさらに高め、教育効果を上げる。超過勤務時間の自己管理を行えるよう月半ばで時数を確認できる機会を設けると共に、業務の改善や分担等による業務量の平準化を図り、働きやすい職場づくりを目指す。					